

適正利用・エコツーリズムワーキンググループの検討結果と今後の課題等

2 会議での合意内容および現状

(合意された戦略の基本)

エコツーリズム戦略の基本となる3つの要素は次のとおりと合意

- 世界自然遺産地域の自然価値の保護
- 観光客に対する自然に基づく良質な体験の提供
- 地域経済の発展

(戦略の対象)

- ・今回策定するエコツーリズム戦略では、陸域の利用に加えて海域の観光活動も対象とする(漁業・海運などの産業的利用は除く)。
- ・エコツアー事業者によるツアーだけでなく、いわゆるマスツアーで来訪する一般観光客の観光活動も対象とする。
- ・上記の対象とする活動は、遺産地域で行われる観光活動(一部は遺産地域外も含む)とする。

(既存計画との関係)

- ・エコツーリズム戦略策定に伴い、エコツーリズム推進計画や利用適正化基本計画などの関連計画は順次戦略の体系に統合する。
- ・エコツーリズム戦略に基づき、個別地区の計画や協議会なども連携・統合を図る。そのため、知床五湖や羅臼湖など個別の議論が進展している地区についても戦略の中で統合的に扱う。

(策定のプロセス)

- ・エコツーリズム戦略の作成は、検討会議の一部の構成員による起草部会や作業部会を開催し平成22年度第3回適正利用・エコツーリズム検討会議に諮るべく作業中。その後、パブリックコメントやワークショップを行い、最終的に平成23年度の第1回の適正利用・エコツーリズム検討会議にて「骨子」として承認を行う。

3 今後のプロセス

- ・起草部会でエコツーリズム戦略の骨子の案作成(平成23年6月まで)
- ・骨子(案)の関係者による調整や修正
- ・エコツーリズム戦略と個別の計画や協議会等との調整
- ・第3回適正利用・エコツーリズム検討会議での骨子案の提示と策定のプロセスの確認

1 会議等の開催結果

平成22年11月8日 H22年度 第2回適正利用・エコツーリズム検討会議を開催

知床世界自然遺産地域連絡会議適正利用・エコツーリズム部会と合同開催

主な検討内容

(エコツーリズム戦略関係)

- ・エコツーリズム戦略の定義、策定の重要性を確認。
- ・誰もがわかる目標を策定し、統一的な枠組みの中で連携を図りながら、海域を含

め、自然の価値の保護や向上を図り、自然を観光資源として利用し、その価値を享受できるような戦略策定を目指すことを確認。

- ・骨子案を起草部会で作成。(現在作業中)

(個別会合における検討状況報告)

- ・知床五湖、ウトロ海域の海鳥と海域利用のあり方、羅臼湖についての現在までの検討状況について報告

4 今後の主な予定

平成23年3月10日(木) 第3回適正利用・エコツーリズム検討会議

知床世界自然遺産地域連絡会議適正利用・エコツーリズム部会と合同開催

- ・骨子案の提示と策定のプロセスの確認が主要検討課題

5 その他の会合等の開催状況

- ・起草部会・作業部会

今年度は計4回開催。エコツーリズム戦略の原案を検討。

- ・羅臼湖会合

11月に第1回会合を開催。3月に第2回を予定。羅臼湖の適正な利用のあり方を検討。

- ・ウトロ海域における海鳥の保護と持続可能な海域利用検討会

今年度は計2回開催。持続可能なウトロ海域の利用のあり方を検討。